

精神・行動障害

文献

今井必生, 安田賢三, 西野直樹. 身体接触と精神障害患者の不安 無作為化比較試験. メンタルヘルス岡本記念財団研究助成報告集. 2013; 24: 1-4. 医中誌 web ID 2014250175

1. 目的

TM(タクティールマッサージ: 身体接触)が統合失調症患者の不安や QOL、ラポール形成に及ぼす効果の検証。

2. 研究デザイン

2 群同時並行 RCT(クロスオーバー)

3. セッティング

医療法人内海慈仁会 姫路北病院

4. 参加者

単科精神科病院に入院する慢性期(3 か月以上)統合失調症患者 13 名(平均年齢 不詳)

5. 介入

Arm 1: TM→観察(Cont)群 37 名(平均年齢 54.8±9.6 歳)

Arm 2: 観察(Cont)→TM 群 6 名(平均年齢 62.4±3.6 歳)

6. 主なアウトカム評価項目

STAI(不安特点の評価)、VAS(QOL 評価)、BPRS(精神病症状尺度)、CID(対人距離の指標)

7. 主な結果

1) TM 期は、状態不安は有意($p < 0.032$)に減少(TM 期スコア変化 -0.6 ± 1.0 観察期スコア 0.3 ± 0.6)

2) CID(治療者)では、TM 期が観察期よりスコアが有意($p < 0.017$)に増加(TM 期スコア変化 1.0 ± 21.3 観察期スコア -64.74 ± 6.2)

8. 結論

慢性期統合失調症患者に対する TM 介入は、状態不安を減少、治療者に対する CID を増加させた。

9. 論文中の安全性評価

記載なし。

10. Abstractor のコメント

本論文は、研究デザインとしては高く評価できる手続きが踏まえられ実行されている。108 名の患者を対象として説明、同意の時点で、13 名が残り最終的に研究対象となったが、さらに 3 名の脱落者が出現し、サンプル数はわずかとなったが、エビデンスとしては高く評価されると考えられる。また、精神科患者を対象とする研究の困難さも垣間うかがわれた。治療者—患者関係を反映する評価尺度としては、CID は他の精神科治療法の評価尺度として用いることができ、治療構造とその推移を明らかにすることができる。

11. Abstractor and date

緒方昭広 2015.3.25